（様式⑦－1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心･健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

2024.12.2

堺市立若松台学校
校長　　古橋　章秀

中学校区におけるめざす子ども像

・学んだことを人生や社会に生かそうとする生徒　　・実際の社会や生活で生きて働く知識・技能を備えた生徒　　・自ら学び続け未知の状況にも対応できる生徒

令和６年度　重点目標

急激に変化する時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育み、子どもたちの可能性を引き出すため、これからの堺の学びとして、「令和の日本型学校教育」である多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。【学校組織としての重点目標】①主体的・協働的な学びを通して「総合的な学力」を育む学校。②多様性を認め、一人ひとりの個性を尊重する学校。③子どもの発達段階に応じて一貫した教育を行う学校。④チーム力を発揮し、家庭・地域・関係機関とともに子どもを育てる学校。⑤いじめの未然防止・早期発見・早期対応に真摯に取り組み、早期解決を図る学校。

「確かな学び」の現状

令和５年度は、生徒が主体的に授業に参加する姿勢が多く見られるようになった。グループ活動を通して仲間と協働的な作業が活発化した。また、職員相互の授業参観及び意見交換により一方的な授業から対話的な授業展開への変換を見ることができた。また英数共に予定の習熟度別授業実施割合を大きく上回った。きめ細かい授業に対する生徒からの評価も上々である。全ての授業においてパソコンを利用しているが、教科特性によって利用度にばらつきが見られた。校区内の小学校高学年については、令和５年度に中学校英語教員が授業を受け持っており、１年生については実質の中高一貫の英語教育の効果が期待される。

「豊かな心・健やかな体」の現状

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校のルールを守って、責任ある行動をとっている」という肯定回答はいずれも全校生徒の大半に達し、本校の様子をそのまま表しているような結果となった。加えて、学年が上がるにつれ、その場の状況を判断できるようになり、上級生としての意識の高まりが見られた。健やかな体の面においては、昨年５月にコロナがの５類移行されたことによりマスクを外す生徒が増加、生徒の行動様式の活発化が顕著であった。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組、★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～11 月）		達成状況（年度末） 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎学力の定着	基本的な知識･技能の定着および教科学力の向上	・３年生数学、３年生英語を年間通じて少人数授業。 ・学校群としての活動として小学校教諭が１年生の数学授業に参加し、生徒を側面支援する。	定期テスト等の得点推移	定期テスト等 少人数授業 アンケート	年度末	◎	３年英語の習熟度別は授業全体の７割以上を占め、単純分割１割以上実施。３年数学の習熟度別は授業全体の７割、単純分割１割以上実施。				
			●タブレット端末の活用をはじめ、それぞれの授業において、教材や教え方を工夫する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上･･･A評価(4･5) 80～30%･･･B評価(3･2) 30%以下･･･C評価(1)	生徒用学校 アンケート ＣＢＴ調査	年度末	○	教員の ICT 利用頻度がやや増し、教科による工夫が進んでいる。				
	授業改善	生徒が主体的に取り組む授業づくり	●少人数授業をはじめ、学びのコンパスに基づき、小中９年間を見通した授業づくりを行う			年度末	○	「学びのコンパス」を意識した授業づくりを目指している。また、学校群により校区内で共通認識のもと授業づくりをしている。				
			●主体的、対話的で深い学びにつながる授業として、問題解決的学習やグループ活動に取り組む。			年度末	○	グループ活動を推進し、対話的授業展開を実施している。				
			・教員の授業力向上を目的として、参観授業や研究授業を計画的に推進する。	研修の進捗状況	職員用学校 アンケート	年度末	○	学期に１度、授業見学週間を設定し 意見交換しやすい環境を整えている。				
豊かな心･健やかな体	秩序と活気ある学びの場づくり	自己肯定感の向上および将来設計と向上心の育成	●挨拶や返事などの基本的な生活習慣を励行する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上･･･A評価(4･5) 80～30%･･･B評価(3･2) 30%以下･･･C評価(1)	生徒用学校 アンケート ＣＢＴ調査	年度末	◎	朝の登校指導を始め、各学年の職員が習慣作りに取り組んでいる。				
			・委員会活動等を中心に生徒が活躍できる場を増やす。			年度末	○	毎月、委員会活動を実施している。				
			・学年ごとに生徒の成長に合わせたキャリア教育推進。			年度末	○	１・３年で進路学活、２年生は、２月の職業体験に向けて現在準備中。				
	豊かな人権感覚と道徳性の育成	いじめのない 明るく元気で仲の良い 人間関係の育成	●生徒理解、生徒間交流の見守りとお互いの人間関係育成を目的に、教員と生徒との接点を増やし、いじめのない明るい学校づくりに取り組む。			年度末	◎	アンケートや教育相談を実施し、生徒からの聞き取りをしている。講演会などで啓発を進めている。				
			・道徳教育を着実に積み重ね、命の大切さや人権の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会を作る。			年度末	◎	教職員全員がローテーションし、道徳科目の授業を複数の切り口で展開中。				
独自の取組	地域・家庭への適切な情報発信	学校運営や教育活動が保護者や地域に見える「開かれた学校」「信頼される学校」づくりの推進	●学校 WEB ﾍﾟｰｼﾞの更新、通信類の発行、メール発信を通して、学校の情報を保護者・地域に伝達する。	学校アンケートの プラス(肯定)評価 80%以上･･･A評価(4･5) 80～30%･･･B評価(3･2) 30%以下･･･C評価(1)	生徒用学校 アンケート ＣＢＴ調査 保護者用学校 アンケート	年度末	○	個人情報保護の観点を大切にしながら情報発信を実施している。				
			・授業参観、体育大会、文化活動発表会、オープンスクール、教育講演会、ＰＴＡ活動など、保護者や地域の方が来校する機会を設け、開かれた学校にする。			年度末	◎	授業参観をオープンスクールに変えた。行事はすべて実施し、保護者交流も進んでいる。				

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）